

# 川に積もる雪、集う人

～三条鍛冶が運ぶものづくりからの再生～



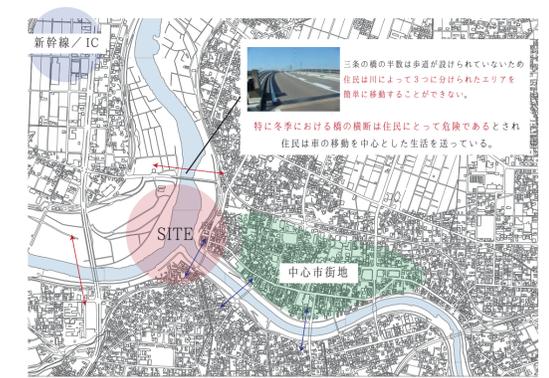
武田 基杏

# 川に積もる雪、集う人

## ～三条鍛冶が運ぶものづくりからの再生～

地方都市「新潟県三条市」は大都市とは同じ尺度で計ることができない独自の資源・価値を持っている。しかし衰退しているように受け取られるのは、「地方独自の価値を生かし、発達発展する場を持っていなかった」からであると考えられる。「積雪」「川」「工場」3つの特性を、建築を通して顕在化させ、それらを交流させることで、三条が自然と力をつけていく場を提案する。

【川を渡れない町】—— 新潟県三条市



かつての三条は川の合流点を中心に、川と町が一体となっていた。しかし近年車社会の進行により、町の拠点は内陸の郊外に分散、川辺にある中心市街地は空洞化/高齢化という問題を抱えている。川は現在利用されることなく、三条町の「核」の場を失っている状態であると言える。

<合流点の歴史>

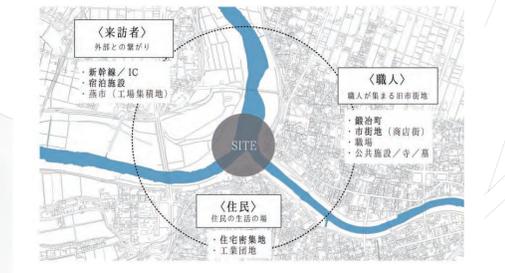
室町時代  
**【歴史Ⅰ】 三条城**  
 かつての三条は川の合流点に城をおき、室町時代から江戸時代の約800年、拠点とされ続けてきた。粗大の洪水と積雪により農作物を収穫することが困難だった三条の農家の副業として和紙の技術を取り入れたことで、三条の鍛冶の歴史が始まる。

江戸時代  
**【歴史Ⅱ】 水運**  
 江戸時代初期から大正末にかけて、信濃川では水運が行われていた。三条は新潟と長岡の中間地点に位置する立地を生かし、町は「川港」となる。合流地は町の人や物や事が集まる「要所」であった。

大正時代  
**【現在】**  
 多くの施設や交通の拠点が内陸の郊外に移り、町は川に背を向けている。かつて栄えた合流地は現在空き地となっている。崖にも使われない川は町を物理的に分断する負の要素となっている。

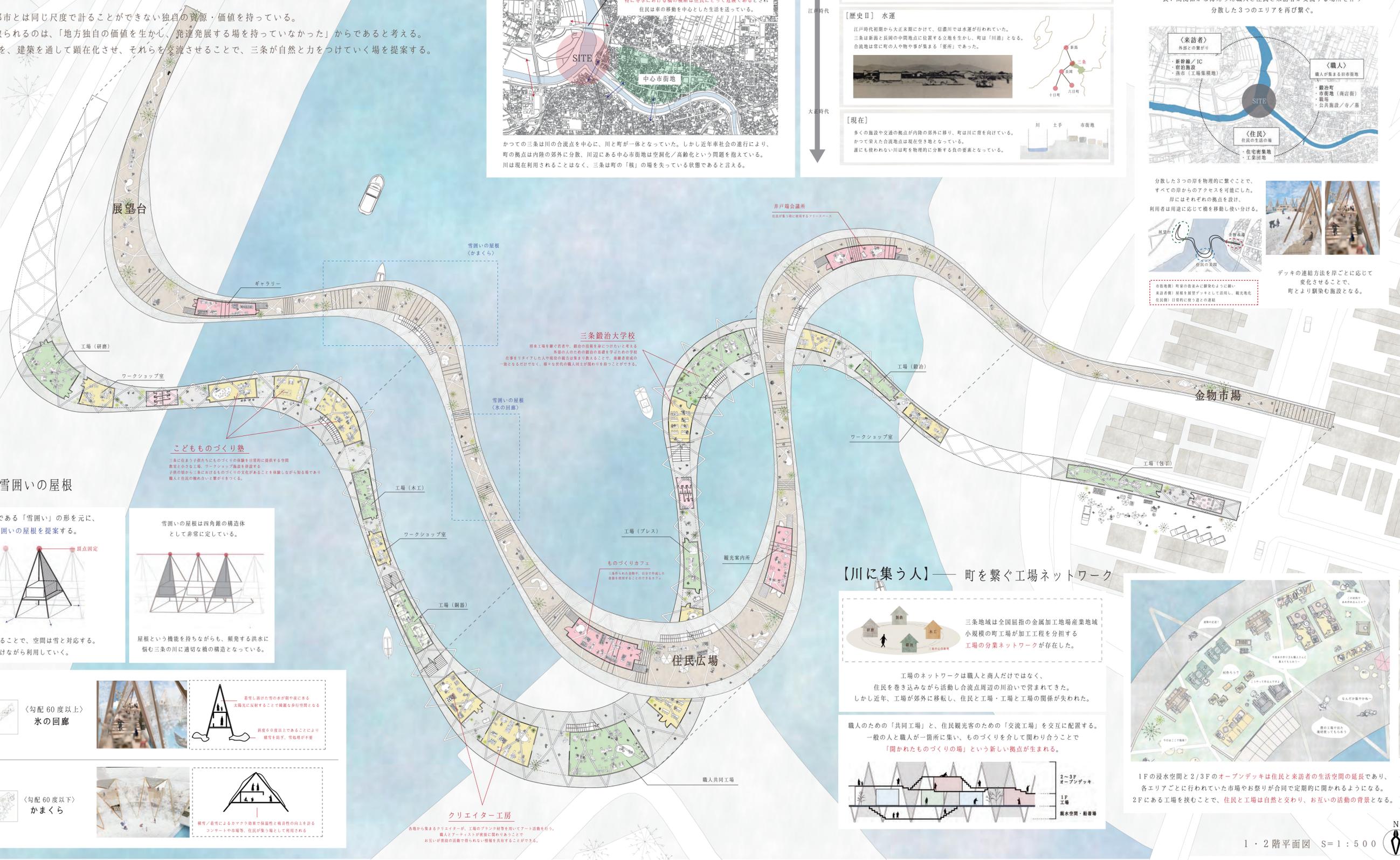
<設計提案>

川によって分断された3つの岸には、「職人」「住民」「来訪者」のコミュニティがそれぞれに形成されている。かつての町の拠点を再現することが困難だった三条の農家の副業として和紙の技術を取り入れたことで、三条の鍛冶の歴史が始まる。



分断した3つの岸を物理的に繋ぐことで、すべての岸からのアクセスを可能にした。岸にはそれぞれの拠点を設け、利用者は用途に応じて橋を移動し使い分ける。

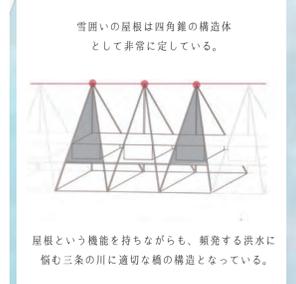
デッキの連結方法を岸ごとに応じて変化させることで、町とより馴染む施設となる。



### 【川に積もる雪】—— 雪囲いの屋根

重い雪の降る日本海地域特有の文化である「雪囲い」の形を元に、橋の構造体を兼ねた四角錐の雪囲いの屋根を提案する。

底辺の4点を動かして屋根の傾斜を変えて、空間は雪と対応する。住民はその空間に居場所を見つけながら利用していく。



<勾配 60度以上> 水の回廊

若雪も降りた雪の氷が溜りやすくなる太陽光に反射することで鋭利な多角空間となる

傾斜60度以上であることにより積雪を溜め、雪が溜りやすくなる

<勾配 60度以下> かまくら

積雪/若雪によるカラカラ効果で保温性と吸音性の向上を図る。コルタートや布製等、住民が寄り添って利用可能な積雪を溜め、雪が溜りやすくなる

### 【川に集う人】—— 町を繋ぐ工場ネットワーク

三条地域は全国屈指の金属加工地産業界域。小規模の町工場が加工工程を分担する「工場分業ネットワーク」が存在した。

工場のネットワークは職人と商人だけではなく、住民を巻き込みながら活動し合流点周辺の川沿いで営まれてきた。しかし近年、工場が郊外に移転し、住民と工場・工場と工場との関係が失われた。

職人のための「共同工場」と、住民観光客のための「交流工場」を交互に配置する。一般の人と職人が一箇所に集い、ものづくりを介して関わり合うことで「開かれたものづくりの場」という新しい拠点が生まれる。



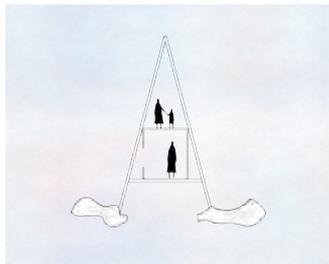
1Fの浸水空間と2/3Fのオープンデッキは住民と来訪者の生活空間の延長であり、各エリアごとに行われていた市場やお祭りが合同で定期的に関われるようになる。2Fにある工場を挟むことで、住民と工場は自然と交わり、お互いの活動の背景となる。

1・2階平面図 S=1:500



町の賑わいから外部の活動空間を持ちつつも、集積したメッシュに着目した風景によって「川に雪が積もる」という自然で仕立てることができない景色となり三条の新しい風物詩/町のシンボルとなる。また、それが土手の内側からも見えることで、土手によって運ばれた川と町の間を再び繋ぎを作る。

立断面図 S=1:500

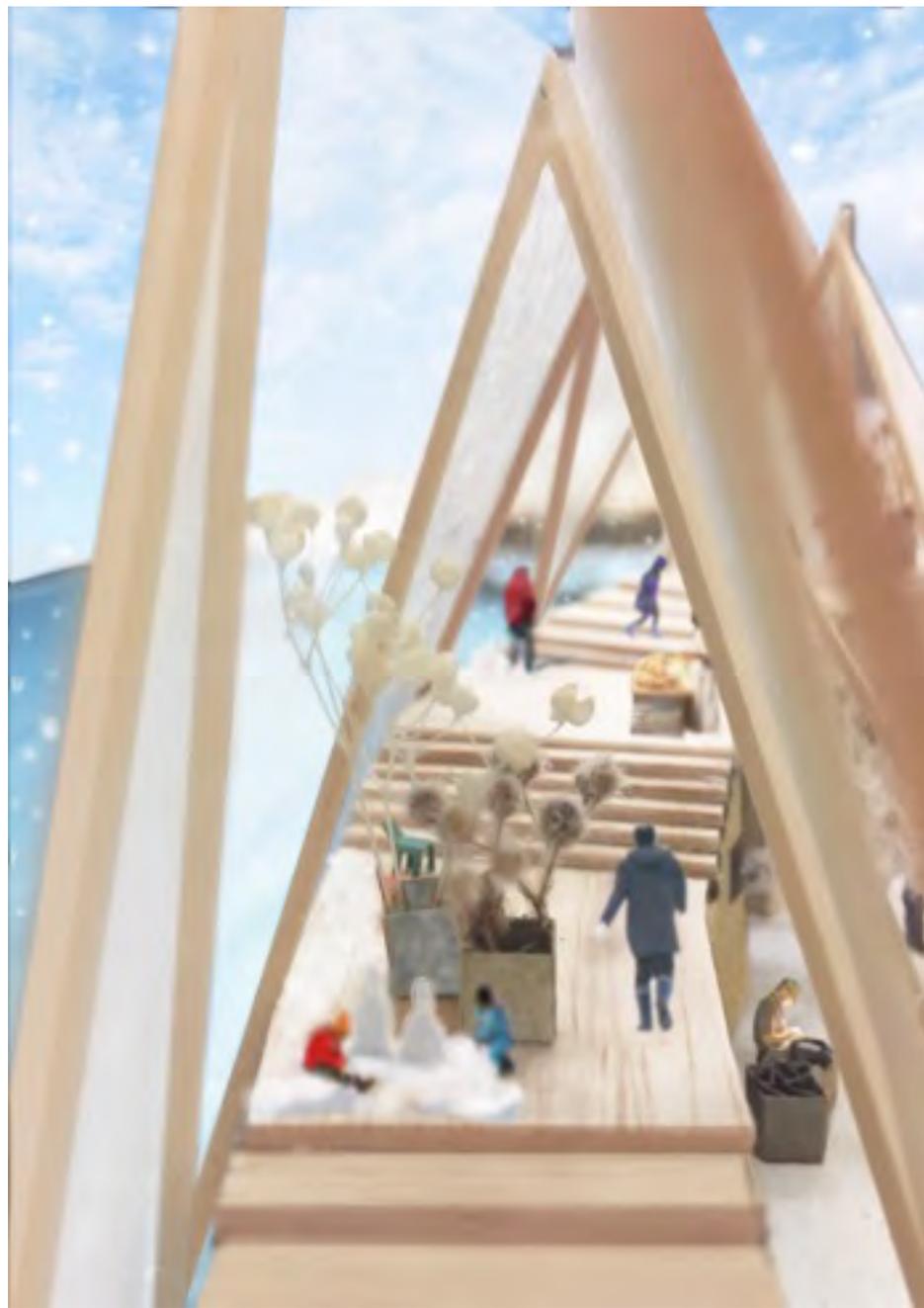


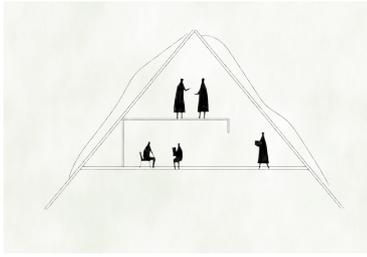
## 勾配〈急〉 氷の回廊



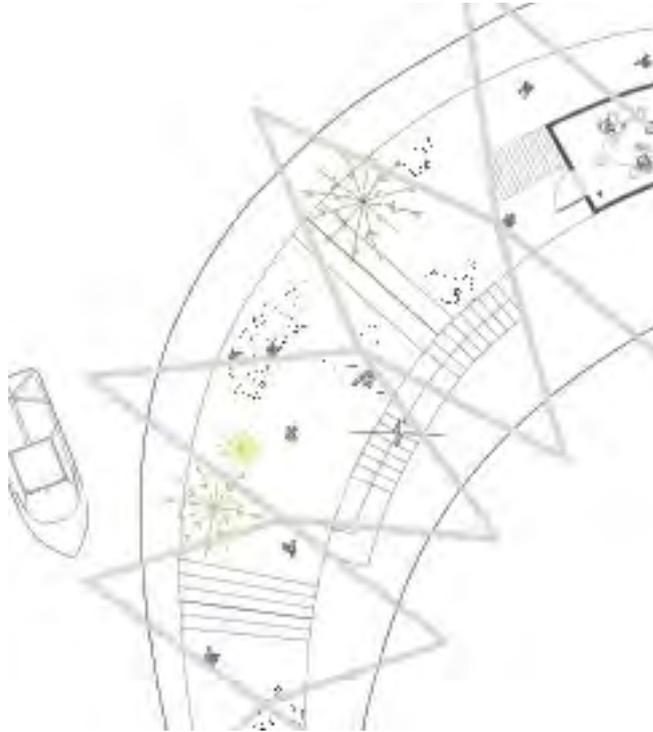
着雪し溶けた雪が朝や夜に凍った氷に  
太陽光を反射させる

日時によって変化する歩行空間





勾配〈緩〉  
かまくら



積雪／着雪によるカマクラ効果で  
保温性と吸音性を獲得する

コンサート・市場、住民が集う空間





一般の人と職人が一箇所に集い、「ものづくり」を介して関わりあう  
開かれたものづくりの場へ